

# 震災・津波がれき処分に関する提言

宮城県知事 村井 嘉浩 殿

## 【提案主旨】

- ・ 宮城県と岩手県のがれきは、湾内海底がれきも含め、一箇所にすべて集めて山積み処分する。三陸海岸は平地が狭いので三陸海岸のがれきも仙台平野海岸一箇所に集める。
- ・ 集めたがれきを古墳のように築いて、慰霊と決意の震災津波記念大公園として整備する。
- ・ 世界一の震災津波資料館を併設することを提案します。

## 【提案理由】

<記念公園として整備することについて>

- ・ がれきは思い出と悲しみの遺品です。ごみとして処分するのは残念なことです。
- ・ 集めたがれきは遺品として扱い、古墳のように山積みして津波避難所をかねた震災津波慰霊の大公園として整備する。
- ・ 津波の教訓や歴史、防災の世界的拠点として、世界一の地震・津波資料館を併設する。
- ・ 世界一の資料館は、被災者と被災地の誇りを守り育てることを助けます。
- ・ 世界一の津波資料館は、学術・文化・観光施設として、被災地の経済復興と文化振興発展に有益です。広島平和公園と併設された原爆資料館・国際会議場や、関東大震災瓦礫を埋め立てて造った横浜の山下公園が良い例です。
- ・ 広域・焼却処理に考案した費用を充当すれば公園と資料館建設は可能です。

<山積み処分について>

- ・ 震災がれきの焼却と広域処理は、費用と時間を要します。復興費用は直接、被災者と被災地復興に役立つことに重点的有効に使いたいです。
- ・ 震災がれきは低レベルであっても放射能汚染されているものがあり、焼却処理や広域処理は環境汚染拡散につながる可能性があることと、焼却灰と煙回収物は濃縮されて、かえって安全な放射能処理を妨げます。
- ・ 宮城や岩手の海底や海岸にある震災がれきに含まれる放射能レベルは低いので、高度な放射能処理施設で管理しなくてもよいが、大量にあるので拡散させないように管理すべきです。震災・津波がれきは山積みし、公園として整備することで十分管理できるレベルです。
- ・ 具体的な放射能汚染予防対策としては風で飛散させないことと、土壤に浸透させないことです。
- ・ がれきは地表より高い位置に積み上げ、表面を粘土やコンクリートその他水の浸透を妨げる資材で表面を覆い、排水溝を設けることで、風で飛散することと、汚染水が土壤に浸透汚染することは防止できます。
- ・ 雨水が浸透しなければ、がれきに元から含まれた水が若干出た後は、新たに汚水ががれきから土壤に排出することはありません。がれきが既にある程度乾いた状態で集められる場合は汚水は出ず、土壤汚染は生じません。がれきを土に埋めると雨水や周囲の土壤から水ががれきに浸透して、やがて、がれきに含まれる放射能をはじめとする汚染水が周囲に流出するので、地表より低い場所に集めて処分・管理することは好ましくありません。
- ・ 宮城・岩手ではがれきの放射能よりも山野や田畑の枯れ草や落ち葉の放射能のほうが格段に多く、震災・津波がれきに含まれる放射能に関してはこれで十分です。放射性廃棄物の処理と汚

染・被曝防止のためには、農地や住宅地の対策をより強化される事を要望します。その際に出た処理物は、別途提案した最終処分場に運び管理することが最善と考えます。

- ・ 震災がれきは山積み処分が早く、経済的で安全な最も合理的な方法です。
- ・ 古墳のように、450m × 600m、平均の高さ 20m の山に築くと、1080 万トン収容できる（比重 2 として計算）。現実的な数字です。
- ・ 処分場を海岸に造るので、がれきを海上輸送できることも利点です。

本要望と並行して私は、環境から集められたすべての放射性廃棄物は、福島第一原子力発電所付近に放射性廃棄物最終処分場を設置して長期管理することを別途要望します。

平成 24 年 10 月 19 日

仙台赤十字病院第二呼吸器内科部長・東北大学臨床教授

岡山 博